

住まいるアップ・ニュース

第6号

2011年3月15日発行

住まいの情報について

社団法人北海道社会福祉士会 相談役 (住まいるアップ委員)

奥田 龍人

— 目次 —

- 住まいの情報について ……1
- 第5回事業者勉強会 ……2
- 入居者アンケート報告 ……2
- 事業者勉強会
企画委員会を発足…3
- 「サービス付き
高齢者住宅」創設…4
- 「住まいるサッポロ」
移転します…4
- ホームページを
開設しました…4
- 編集後記 ……4

私は、シーズネットが札幌市より事業委託を受けた「住まいるアップ事業」に委員として関わっている。この住まいるアップ事業の目的の一つとして、急増する高齢者向け住宅について総合的な情報整備ができないか、ということがある。高齢者向け住宅というだけの括りでは法的な規制が何もないので、入居してからのトラブルなどがあっても行政の対応ができないという問題があったことから、第三者機関がそうした住まいの情報を集め、わかりやすくまとめ、公表する仕組みをつくっては、というのがねらいである。私は、北海道社会福祉士会で福祉サービス第三者評価事業を担ってきたので、そうした経験をこの事業に活かせるのではないかということで声がかかったのだろう。

実際に調査にも携わり、いろいろな住まいを見てきたが、文字通り千差万別で、評価することの難しさを感じた。しかしまた、情報が入居を希望する人に行き届いていないことも明らかとなった。2頁にある利用者アンケ



ート調査でも、「入居前の見学」をしていない人3割、入居住宅だけ見学した人4割という結果である。これでは、入居後トラブルになることも十分予想される。

やはり、入居を希望する人にわかりやすい選択軸を作って公表し、選択できる仕組みが必要なのだろうと思う。サービス付き高齢者住宅がさらに整備されようとしている現状を考えると、ますますわかりやすい情報が求められることになるだろう。住まいるアップ委員会がその一助になることができるよう、与えられた使命を果たしていきたい。

第5回事業者勉強会開催

第5回「安心・快適住まいるアップ事業者勉強会」を、2月17日午後、かでの2・7にて開催し、32名が参加しました。

【高齢者対応共同住宅における医療・看護・介護の連携
～入居者に対するシームレスなサービスの提供～】

國本 正雄 氏(くにもと病院理事長・院長、
NPO 法人シーズネット理事)

川尻 明 氏(くにもと病院学術部)

まず、高齢者人口や高齢単身世帯の増加と病床の削減を背景に、「医療・看護・介護」を選択できる高齢者の住まいが求められている状況についてと、旭川を中心に展開する医療



國本 正雄 氏



会場の様子

と介護の諸施設と住まい、その入居者像や症例について説明がされました。

さらに、高齢者住宅における医療連携の諸問題や注意点に触れ、最後に「医療・看護・介護」の切れ目ないサービス提供により、入居者の安心・満足な暮らしをしていただくことが、くにもと病院グループが目指しているとの締めくくりで、講演を終了しました。

【質疑応答】【参加事業者の意見交換会】

基調講演を受け、「札幌の医療連携の事例を知りたい」「医療連携のための職員研修について」「ケアマネとの連携を活用している」「advance directives(事前確認書)について」等の質疑応答と意見交換が行われました。

【勉強会を終えて】

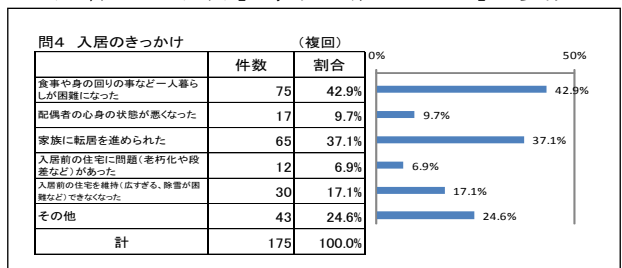
今回は医療の立場からの視点だったこともあり、住宅運営での活用に直接結びつけることは難しかったかも知れませんが、医療連携の取り組みについての詳しいお話を聴く機会としては有効だったと思います。また、各事業所のパンフレット持参の呼びかけに対して、自事業所パンフの持ち込みと、他事業所パンフの持ち帰りが増えています。今後も、情報交換の一環として、継続していきたいと思っています。

入居者アンケート報告

昨年秋、札幌市内の高齢者共同住宅200軒あまりに協力依頼し、42事業所175名(各事業所3～5名、要介護度2以下の自己記入可能な方)を対象に「入居者アンケート」を実施しました。集計結果から見えてきた、入居者像や暮らしぶりなどに関する次ページの項目を抜粋し、前述の事業者勉強会にて報告しました。

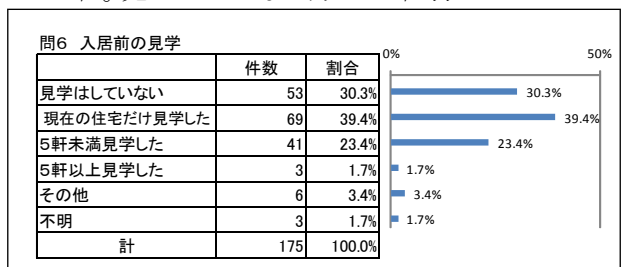
【入居のきっかけ】

「一人暮らしが困難」「家族に勧められて」が多数



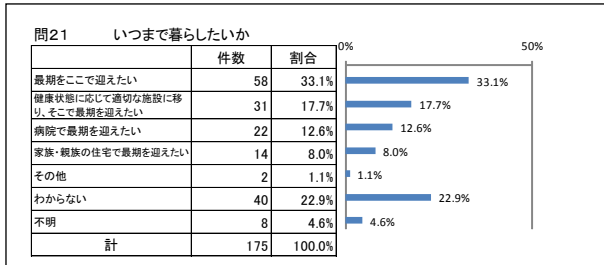
【入居前の見学】

「見学していない」が30%、「入居住宅だけ見学」が39%。見比べていない方が70%弱!

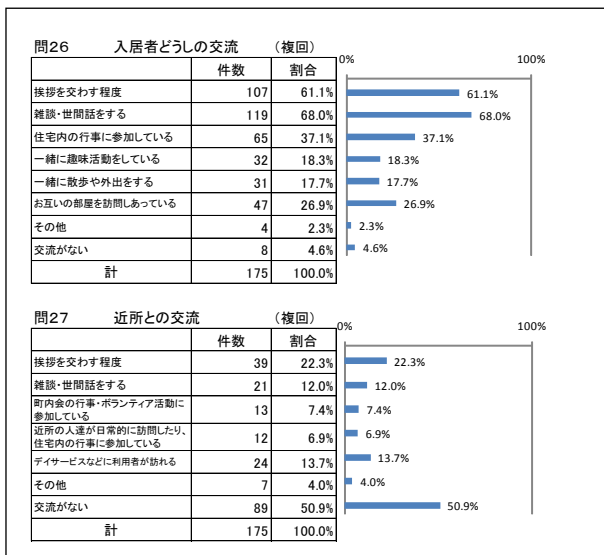


【いつまで暮らしたいか】
終の住まいとしたい方が33%

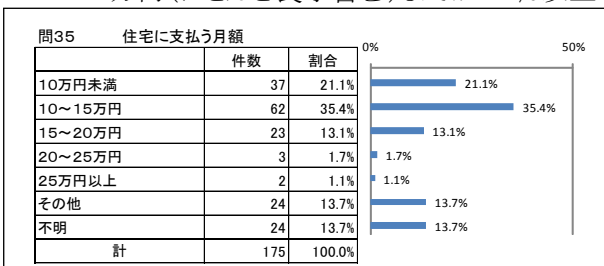
北海道新聞 平成23年1月28日



【入居者同士、近所との交流】
入居者同士でも部屋の行き来などは少ない
近所との交流はほとんどなし



【住宅に支払う金額】
～15万円(ほとんど食事含む)までが56%以上



以上の集計結果から、当センターでは特に問4の「入居前の見学」に着目し、見学会を企画しました。北海道新聞でも大きく取り上げられ、高齢者の反響も非常に大きかったため、来年度の再実施も検討中です。この見学会については、次号で報告いたします。



事業者勉強会 企画委員会を発足

新年度の事業者勉強会は、事業者企画委員会にて実施テーマを検討し開催いたします。

昨年12月の委員募集で6名の有志の方々に賛同いただき、本年2月4日に設置、第1回企画委員会を開催しました。

高齢者住宅事業者が求めるテーマや取り組みをご提案いただきながら、業界全体と、利用者にとってよりよい仕組みづくりに取り組んでまいります。尚、新年度第1回事業者勉強会は、4月25日(月)の予定です。

※ご案内と参加申込書を同封いたしました。
みなさまのご参加をお待ち申し上げます。

「サービス付き高齢者住宅」創設

すでに報道等で御承知と思いますが、「サービス付き高齢者向け住宅」の登録制度の創設に関する法改正案が、本国会に上程されています。早ければ今秋より制度がスタートする模様です。これまでの「高円賃」「高専賃」「高優賃」、一部の「有料老人ホーム」をひとつにまとめる新しい制度です。以下の国土交通省ホームページから詳しい資料が入手できます。

http://www.mlit.go.jp/report/press/house03_hh_000044.html

また、近日中には全国主要都市で、国土交通省による説明会が開催される予定です。

「住まいるサッポロ」移転します

多くの皆様にご利用いただきました高齢者住まいの情報センター「住まいるサッポロ」は、3月18日をもって事務所を移転し、新たに下記のとおり「高齢者住宅相談情報センター」を開設することとなりましたので、ご案内申し上げます。



新名称：あんしん住まいるサッポロ

住所：札幌市中央区北1条西2丁目
オーク札幌ビル1階

電話：011-210-6224

開設月日：平成23年4月1日

開設時間：10:00～16:00

運営法人：NPO法人シーズネット



ホームページ開設しました

高齢期の住み替えを考える『安心・快適住まいるアップ事業』のホームページを開設しました。市民と事業者への情報提供を目的とし、コンテンツの充実をはかって参ります。

<http://smile.seedsnet.gr.jp/>

— 編集後記 —


札幌にも、ようやく春の足音が感じられる季節がやってきました。年度末のお忙しい時季に、お手にとっていただき、ありがとうございます。新年度も定期的に発行してまいりますので、ぜひ高齢者共同住宅事業に関する情報ツールとしてお役立ていただければ幸いです。

安心・快適住まいるアップ事業

札幌・住まいるアップセンター（シーズネット内）

TEL 011-708-8567 FAX 011-717-6002

※本ニュースレターのメール配信ご希望の方は、下記アドレスまでご一報ください。

 info-suc@seedsnet.gr.jp

～新時代を創る高齢者の経験と活力ネットワーク～
SEEDS NETWORK

Seniors' Experiences and Energies for Developing New Systems

高齢者による新しい仕組みづくりの種になりたい、そんな気持ちを込めました。



NPO法人シーズネット

〒001-0010

札幌市北区北10条西4丁目1番地 SCビル2F

代表 TEL 011-717-6001 FAX 011-717-6002

<http://www.seedsnet.gr.jp/>

— その他の事業 —

さっぽろ孤立死ゼロ安心ネットワークモデル事業

さっぽろ孤立死ゼロ推進センター（シーズネット内）

TEL 011-708-8686

シーズネット会員の見守り合い

ほっと安心（シーズネット内）

TEL 011-717-7077

高齢者住宅相談情報センター

あんしん住まいるサッポロ（旧住まいるサッポロ）

〒060-0001 札幌市中央区北1条西2丁目 オーク札幌ビル1F

TEL 011-210-6224